

検定受験者が増加

ゲームソフトも人気

計算力や集中力の向上など、そろばんの良さが見直されている。少子化などの影響で減少の一途だった検定受験者数が増加に転じ、そろばんのゲームソフトの売れ行きも好調だ。基礎学力低下への懸念や、脳を活性化させる「脳トレ」ブームも背景にあり、関係者は「これを機に、そろばんの裾野が広がれば」と期待している。

午後3時。学校を離れた小学生が、手稲珠算学校山の分校（札幌市西区）に続々と集まり、約50人分の席はいっぱい。
「では2桁の加減算を。願いますは32円なり、20円なり…」

生徒世代交代

計算を終えた子どもが次々と手を挙げ、正解すると「はい、ご名算」。4年生から通っている山の手小6年の田中絵理さん(11)は「うまく計算できるぞ

基礎学力低下の不安や「脳トレ」ブーム背景

そろばん再びはじける



真剣な表情でそろばんをはしく小学生札幌市西区の手稲珠算学校山の分校

うれしい。算数のとき、頭の中にそろばんが浮かび、計算が速くなった」と喜ぶ。

同校は札幌市内に7教室あり、生徒は5歳から高校生まで約600人。5年前は400人ほどだったが、小学校低学年や幼児の受講が増えているという。友兼久雄校長(61)は「以前通っていた生徒が親になり、子どもを

北海道新聞
23.4.13
(夕)

通わせるケースも増える」と説明する。札幌だ。

ている」と話す。

日本珠算連盟(東京)によると、珠算・暗算検定の受験者は1980年度の204万5千人がピークで2005年度には18万人まで減ったが、06年度から増え始め、09年度は20万9千人だった。

全国珠算教育連盟(京都)の08年度の検定受験者も45万人と、04年度より3万人増えた。同連盟は「毎年5%ずつ減っていたのが5、6年前に下げ止まり、横ばいを保っている」と説明する。札幌だ。

市内の受験者も06年度から前年度比1・3%ずつ増え、10年度は集計中だが同7・9%増の8328人となる見込みだ。

日本珠算連盟の中山洋専務理事は「受験者が増えたのは、ゆとり教育による学力低下が指摘され始めたころ。親が計算力を高めるそろばんの効果に注目したのでは」とみる。

中高年も支持

そろばんは中高年齢でも人気が高まっている。携帯型ゲーム機のソフトとして07年、08年に発売された「そろばんDS」と「いつでもそろばんDS」は、合わせて4万本が売れた。

同ソフトを開発したフォーウィンズ(東京)の営業担当、藤岡英雄さんは「子ども向けのが、予想外にシニア層からの問い合わせが多かった。脳トレの元祖だ」と驚く。

4月から全面実施された新しい学習指導要領ではそろばんを使う算数の授業が従来の3年生に加え、4年生でも必修化された。

こうした「追い風」を受け、帯広珠算連盟は3月下旬から約2週間、地元のコミュニティFM局でPR番組を流した。「教育雑誌でそろばんが特集されるなど、注目度が増している。この時期に積極的にPRしたい」と話している。